

平成28年2月27日

あざみ野キッカーズ

～ジュニアからシニアまでサッカーを楽しむ～

あざみ野キッカーズ（ジュニア）のプロフィール

1983年4月、あざみ野団地の理事であった故吉原重明さん（当時68歳）が生涯スポーツとしてサッカーをやろうと団地内広報誌で同好の士を集めました。直ぐに20人余りが集まりました。そして、ボールを蹴る楽しさ、夜は仲間と楽しいサッカー談議など地域の人達との交流がこんなにも素晴らしいものだったと皆が思いました。この幸せが生涯味わえるものであることを地域の子供達にも教えようと始めたのが1984年4月でした。これがあざみ野キッカーズ（ジュニア）の誕生です。

地域の子供たちに楽しいサッカーを、そして健全に育つようにと始めてから約32年が経ちました。運営はあざみ野キッカーズのコーチとお母さん達がボランティアで行っています。ジュニアの主なメンバーはあざみ野第一小学校と第二小学校および黒須田小学校の学区内ならびに隣接小学校の子供達です。月謝の無い珍しいチームですが、地域の子供たちとご父母の方々からは当チームに賛同される方が多く、今では140人を超える子供たちがサッカーを楽しんでいます。

また、ここ15年ほど前からお父さん達にも同じ幸せを味わってもらおうと参加を呼びかけたところ、各学年毎に10数人から20数人が毎週のように親子でサッカーを楽しむようになりました。毎秋のお父さん達の大会「親親大会」には100人程のお父さん達がサッカーゲームを楽しんでいます。その夜はあざみ野の飲み屋さんがキッカーズ一色になります。お父さん達は「地域に仲間がいっぱいできて、こんなにも素晴らしいことがあるとは思わなかった」と口々に言っています。家庭でもサッカーを中心に親子の会話が弾んでいるとのこと。

初代会長の吉原さんは2002年5月5日、日韓ワールドカップを直前にして87歳でお亡くなりになりました。もちろん、その直前まで生涯現役のサッカー選手でした。

我々、あざみ野キッカーズは吉原元会長のように生涯サッカーを楽しむことを目標に地域での活動を続けています。

あざみ野キッカーズ（ジュニア）の指導理念

1. あざみ野キッカーズは地域の子供達に楽しいサッカーを指導します。
2. あざみ野キッカーズはサッカーを生涯スポーツの入口として位置づけて指導します。
3. あざみ野キッカーズは子供達とその家族やサッカーに関わる全員がサッカーの楽しさを味わってもらうようにします。
4. あざみ野キッカーズはサッカーだけでなく、マナーや他人に対する思いやりなど社会人としての基本動作についても地域の人達と一緒に見守り、指導します。

あざみ野キッカーズ（ジュニア）代表 丸山 剛生
副代表 河合 健
相談役 国方 徳二